

助産雑誌 Back Number

◆ 2015 年 6 月号



特集 地域でつくる妊娠から
育児までの切れ目ない支援
今、注目の日本版ネウボラとは

厚生労働省が少子化社会対策の一環として 2014 年度より開始した「妊娠・出産包括支援モデル事業」。そのモデルとなったフィンランドの「ネウボラ」と、実際に切れ目ない支援を開始した自治体の事例を紹介し、助産師だからこそできる少子化対策について考えました。

◆ 2015 年 5 月号



特集 女性が主体的に産む
ための助産ケア

妊娠期から分娩期、産後にかけて助産師が女性や家族に対して行なう助産ケアを特集しました。技術の紹介のみならず、妊娠期から女性に「自分で産むんだ」という自覚をもってもらい、地域で生活していく力を育むなど、女性の力を引き出す支援の方法をお伝えします。

◆ 2015 年 4 月号



特集 産婦の身体の声をきく
アセスメント能力を高めよう

「聞く」「聴く」「訊く」の「3つのきく」をキーワードに、言葉、表情、行動などから産婦の身体が何を伝えようとしているのかを感じ取り、アセスメントにつなげていける解説をしました。意識的にアセスメントすることで、より豊かな助産実践が可能になります。

◆ 2015 年 3 月号



特集 ペリネイタル・ロスの
ケアを考える

流産・死産・新生児死亡などで周産期に子どもを亡くす家族は未だ多く存在し、そのような家族に対するケアの必要性が認識されています。本特集では、ペリネイタル・ロスのケアに際して基盤となる考え方や、家族が望むケアについてお伝えします。

◆ 2015 年 2 月号



特集 助産師が
しっかり実施したい
新生児蘇生法 (NCPR)

新生児蘇生法 (NCPR) を、いざという時に自分の判断で自信をもって実施してほしい。ためらうことなく臨んでほしいという思いから、特集を組みました。出生からの 60 秒間に立ち会う助産師が、新生児蘇生技術を維持・向上する方法をお伝えします。

◆ 2015 年 1 月号



特集 少子化、分娩施設の集約、
就業場所の偏在 etc. から
助産師のよりよい
未来像を描く！

少子化による分娩件数の減少など、現在助産師が直面している課題はさまざまあります。本特集では、助産ケアのみならず、産後ケアや育児支援などでも、助産師が社会から必要とされるなか、今後どのように助産師の未来を切り拓いていけばよいのか考えます。

◆ 2014 年 12 月号

特集

キャリアを積むということ 助産師としての私の働き方

11 月号

『産婦人科診療ガイドライン—産科編 2014』の改訂ポイント解説

10 月号

コミュニケーション術をみがいて、いいお産をめざす

9 月号

お父さんの「父親力」を高める

8 月号

知っておきたい、新生児・乳児のこと 病気の不安から母乳育児の疑問まで

7 月号

タッチケアの新たな時代

6 月号

母乳不足と補足を考える

バックナンバーのお取り扱いについて

① 2013 年 7 月号以降の雑誌は、メッドブック (TEL: 03-3817-5666) にて承ります。

② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記へお願いいたします。

株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11 TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539